

認定看護師教育基準カリキュラムの概要

(特定行為研修を組み込んでいる教育課程：B課程教育機関)

分野	乳がん看護
作成年月	平成 31 年 3 月
【趣旨】	
<p>目指すべき乳がん看護認定看護師像は、一般市民に対する啓発教育から、医療施設から在宅等まで広く対応でき、予防から診断、治療期、エンドオブライフにおけるあらゆる医療ニーズに貢献できることとした。社会的ニーズの変化に伴い、乳がん看護認定看護師として求められる多様な臨床場面に対応するため「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」と個々の患者の病態をふまえた周手術期看護を実践するために「創部ドレーン管理関連」の特定行為を組み込んだ。現行の基準カリキュラムを元に、集学的治療にともなう看護、女性性看護、遺伝看護を重点課題として追加した。</p>	
【組み込む特定行為区分】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」 ・「創部ドレーン管理関連」 	
【詳細】 〈〉は単元、『』は新たな基準カリキュラムの教科目、「」は現行の基準カリキュラムの教科目を示す	
<p>1. 認定看護分野専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『がん看護学総論』『腫瘍学概論』『がんの医療サービスと社会資源』は、がん看護領域 4 分野(緩和ケア、がん薬物療法看護、がん放射線療法看護、乳がん看護)においてがん看護の知識の基盤となる学習内容として統一した。現行の基準カリキュラムでは、専門基礎科目でいくつかの合同授業が可能であったが、各分野によって少しずつ教科目の学習内容が異なっているため合同授業のできる時間数は少なかった。そこで、がん領域の認定看護師の基礎となる学習内容を揃え、将来的に合同授業や共通した教材を活用できるようにした。 ・「腫瘍学概論」は『乳腺腫瘍学概論』に教科目名を変更し、単元に乳房再建術を追加した。緩和医療については、緩和ケアの概念は『がん看護学総論』の学習内容に含まれるため移動し、乳がん特有のペインマネジメントと症状マネジメント(胸水・骨・脳転移)に分割して概論と各論に分けて学習できるように整理した。乳がん患者の多様な臨床場面に対応するために、再発治療とサイコオンコロジーを追加した。 ・現行の「がん看護学総論 1」は新たな『がん看護学総論』に集約し、〈女性のライフサイクル〉は、乳がん患者を理解するために『乳がん看護概論』に移動した。 ・現行の「がん看護学総論 2」〈がん患者とヘルスプロモーション〉〈健康教育〉は『乳がん看護概論』に移動した。〈フィジカルアセスメント〉は共通科目の『フィジカルアセスメント』の学習内容に含まれるため移動した。〈がん医療チームにおける看護の役割〉は『がん看護学総論』の学習内容に含まれるため移動した。 ・現行の「学内演習」〈看護職集団への教育・指導に関する演習〉、〈市民(個人及び集団)への乳がん啓発教育に関する演習〉は『乳がん看護概論』に移動し、15 時間とした。 ・『乳がん看護概論』は現行の〈乳がんの発病がもたらす心理・社会的影響〉を〈乳がんの発病がもたらす心理的・社会的・スピリチュアル的影響〉に変更した。さらに〈乳がん患者・家族の発達課題〉への影響を追加した。 ・『集学的治療をうける乳がん患者の看護』は、乳がんのあらゆる臨床場面に対応するため〈再発・転移治療〉〈EOL ケア〉〈事例を用いた統合的アセスメントと看護展開〉を追加した。 ・現行の「乳がんサバイバーとその家族への支援」の〈代替・保管療法〉は『がん看護学総論』に移動した。遺伝看護を重点課題に挙げたため、〈遺伝情報を受け継ぐ家族員への継続支援〉を追加した。 ・『乳がん患者のボディイメージ変容への援助技術』は、ボディイメージの変容に対するより広義の理解を深めるため、現行の〈ボディイメージ変容による夫婦・家族間の問題の理解と対応〉を〈ボディイメージ変容によるセクシュアリティの理解と対応〉に変更した。さらに、〈自壊創のケア〉を追加した。 	

2. 統合演習

- ・ 現行の事例検討を除く単元は専門科目に移動した。

3. 臨地実習

- ・ 実習方法を看護実践実習と見学実習とし、実習内容も整理した。